

(資料9)

第3回長崎県県庁舎整備懇話会資料

江戸町の歴史について

現庁舎敷地の変遷

- 1571年(元亀2年) イエズス会「サンパウロ教会(岬の教会)」を建設
- 1614年(慶長19年) キリシタン禁教令により破壊
- 1663年(寛文3年) 「長崎奉行所(東屋敷、西屋敷)」を現在地に再築
- 1673年(延宝元年) 東屋敷を立山に移設し、西役所を「長崎奉行所西役所」と称す
- 1855年(安政2年) 西役所内に「海軍伝習所」を開設
- 1857年(安政4年) 西役所内「医学伝習所」において講義を開始
- 1868年(明治元年) 「長崎会議所」「長崎裁判所」「長崎府」に改称
長崎府が立山役所跡へ移転
- 1869年(明治2年) 「長崎県庁」に改称

- 1874年(明治7年) 西役所跡に県庁舎が開庁(7月)
台風のため倒壊(8月)
- 1876年(明治9年) 新県庁舎を建設
- 1911年(明治44年) 新県庁舎を建設
- 1945年(昭和20年) 原爆により焼失
- 1953年(昭和28年) 新県庁舎を建設



明治44年に建設された県庁舎

江戸町周辺の変遷（室町時代～江戸時代）

「岬の教会」

- 1571年(元龜2年)
大村純忠が「森崎」の地に町づくりを開始。6町が成立
(島原町・分地町・大村町・外浦町・平戸町・横瀬浦町)
新しい町がつけられた時、フィゲイレド神父(イエズス会:
キリスト教の宣教師)は町の突端の波止場の傍らに小さな
聖堂を建設
- 1614年(慶長19年)
岬の教会が破壊される(慶長・元和の大破却)



「岬の教会」イメージ図
(出典:旅する長崎学1『キリシタン文化1』)

江戸町周辺の変遷（江戸時代）

寛文長崎図屏風(長崎市立博物館蔵)



1673年頃の「長崎奉行所西役所」と「出島」

「海軍伝習所」

- 1855年(安政2年)
江戸幕府が、海軍士官養成のため、長崎奉行所西役所内に設立した教育機関
幕臣や雄藩藩士から選抜して、オランダ人教師によって西洋技術・航海術・蘭学・諸科学などを学ばせる
- 1857年(安政4年)
西役所「医学伝習所」において講義を開始

「長崎奉行所西役所」

- 1592年(文禄元年)
安土・桃山時代、豊臣秀吉が後の長崎奉行所を開設
場所は本博多町(現在の万才町)
- 1633年(寛永10年)
長崎奉行が2人制となり、奉行所を東西二つの屋敷(東屋敷、西屋敷)に分割
- 1663年(寛文3年)
寛文の大火により焼失後、外浦町(現在の江戸町)に奉行所(東屋敷、西屋敷)を再築
- 1673年(延宝元年)
立山屋敷(立山役所)を設置し、東屋敷を移設以降、旧役所を「西役所」と称す

幕府長崎海軍伝習所之図((財)鍋島報効会蔵)



1858年頃の「海軍伝習所」と「出島」

江戸町周辺の変遷（明治～昭和）



明治44年に建設された県庁舎

県庁舎の変遷

- 1874年(明治7年)7月
西役所跡に県庁舎開庁(洋風木造2階建て)
- 1874年8月20日
暴風のため新庁舎が倒壊
勝山小学校の一部に仮庁舎を設置
- 1876年(明治9年)
新庁舎の再建に着手して同年12月完成
- 1910年(明治43年)
県会議事院が完成
- 1911年(明治44年)
県庁舎が完成
- 1945年(昭和20年)8月9日
原爆のため県庁舎と県会議事院が焼失
仮事務所を県立高等学校(旧長崎東高校)と勝山
国民学校等に分散して設置



長崎港から見た県庁舎



原爆で焼失した県庁舎(昭和20年8月)

江戸町周辺の変遷（現在の県庁舎）



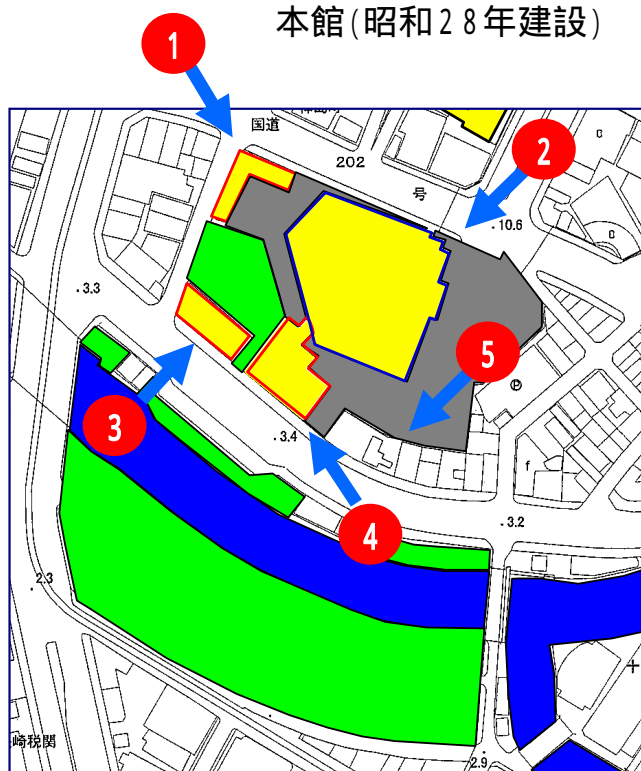
第三別館(大正12年建設)



本館(昭和28年建設)



公用車車庫(昭和55年建設)



第二別館(昭和34年建設)



第一別館(昭和42年建設)

史跡「出島和蘭商館跡」復元整備事業

〔経過〕

- 明治37年 第2期港湾改良工事の完成により海に浮かぶ出島の扇形の原形が失われる。
- 大正11年 国の史跡に指定
- 昭和26年 長崎市が史跡内民有地の公有化への取り組みを開始
- 昭和57年 長崎市出島史跡整備審議会が史跡の長期的かつ総合的な復元整備構想を答申
- 平成8年 長崎市が「史跡『出島和蘭商館跡』復元整備計画」を策定
本格的な復元整備事業を開始
- 平成12年 「ヘトル部屋」など5棟復元
- 平成13年 史跡内民有地の完全公有化完了
- 平成18年 「カピタン部屋」、「水門」など5棟復元。短中期計画の第一段階完成

〔史跡「出島和蘭商館跡」復元整備計画〕

- 短中期復元整備計画(平成8年度～概ね15ヶ年で実施予定)
 - ・19世紀初頭の建造物25棟の復元
 - ・出島周辺の護岸石垣などの復元・整備
 - ・史跡内の建物(明治期に建設)の整備活用
表門橋及び第2・第3段階の建物の整備時期は未定
- 長期復元整備計画(実施期間は未定)
 - ・四方に水面を確保し、19世紀初頭の扇形の島の完全復元を目指す。
 - ・計画実現には、中島川の振り替え、国道499号線の線形変更など大規模な市街地改造が必要となるため、相当長期間を要する。

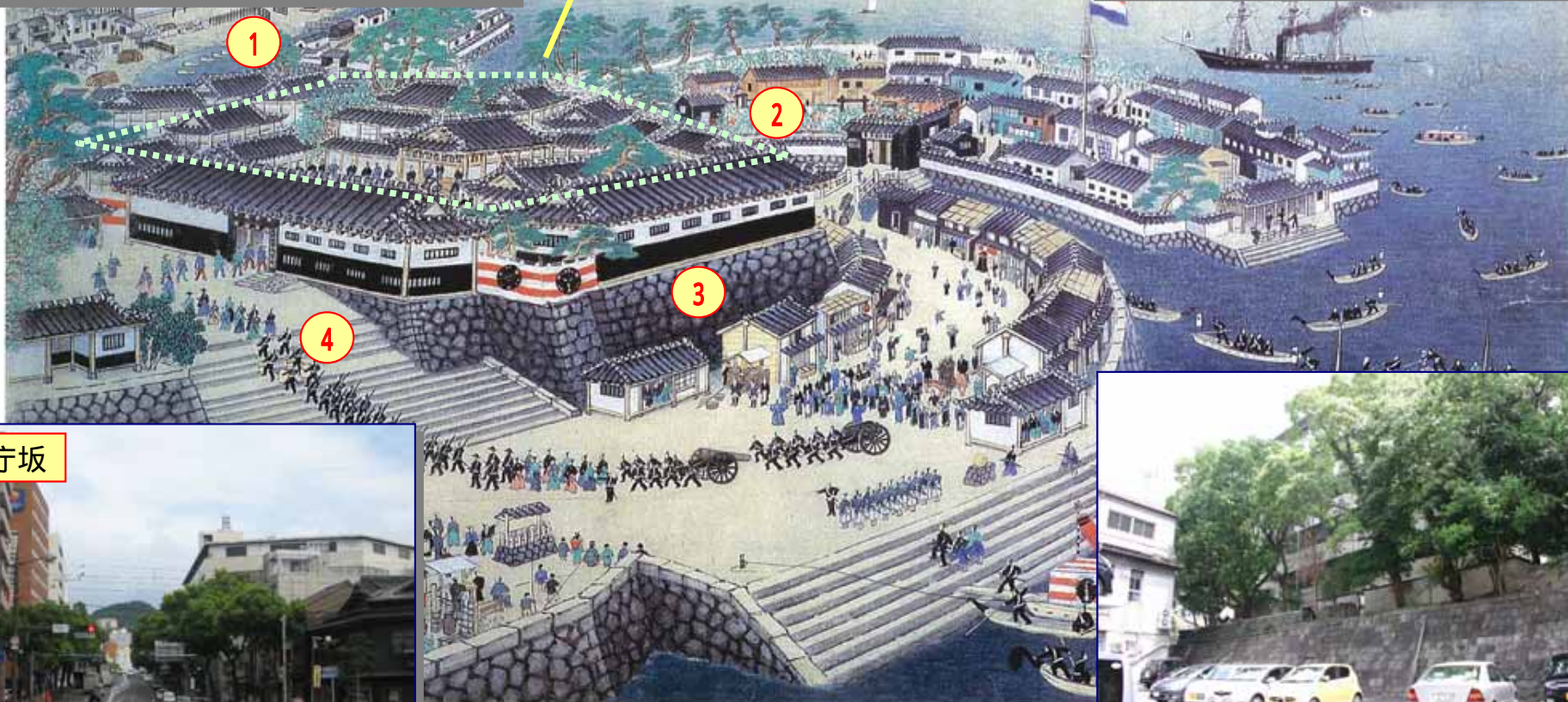


短中期計画完成予想図

幕末の名残り



西役所から出島を監視



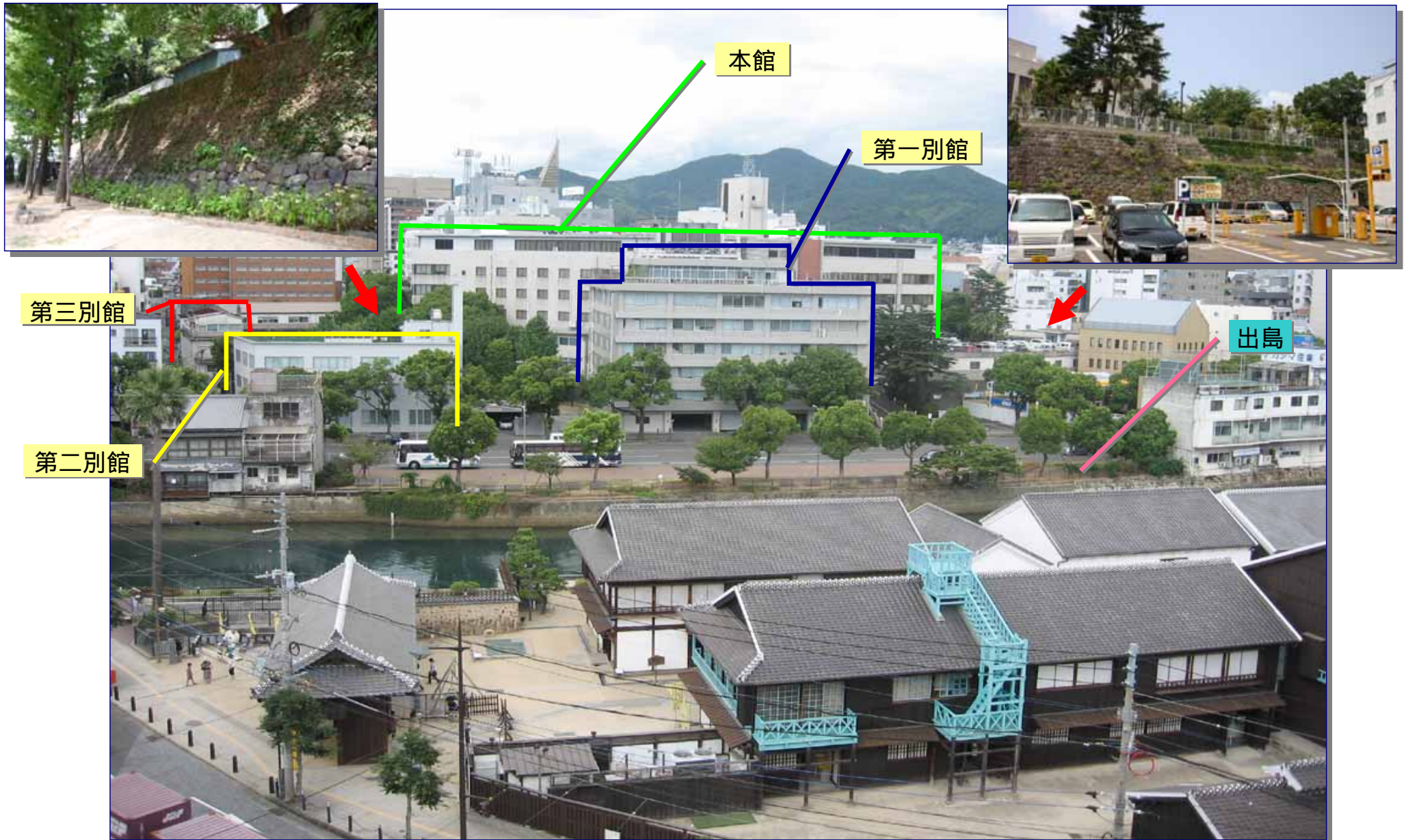
県庁坂



1858年頃の「海軍伝習所」と「出島」

出島周辺のまちづくりとの調和

奉行所としての歴史的輪郭を県庁舎が遮っている



出島周辺のまちづくりとの調和

西役所として出島を見下ろしていた風景を県庁舎が遮っている



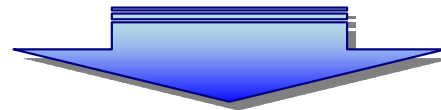
公用車車庫 (第一車庫)



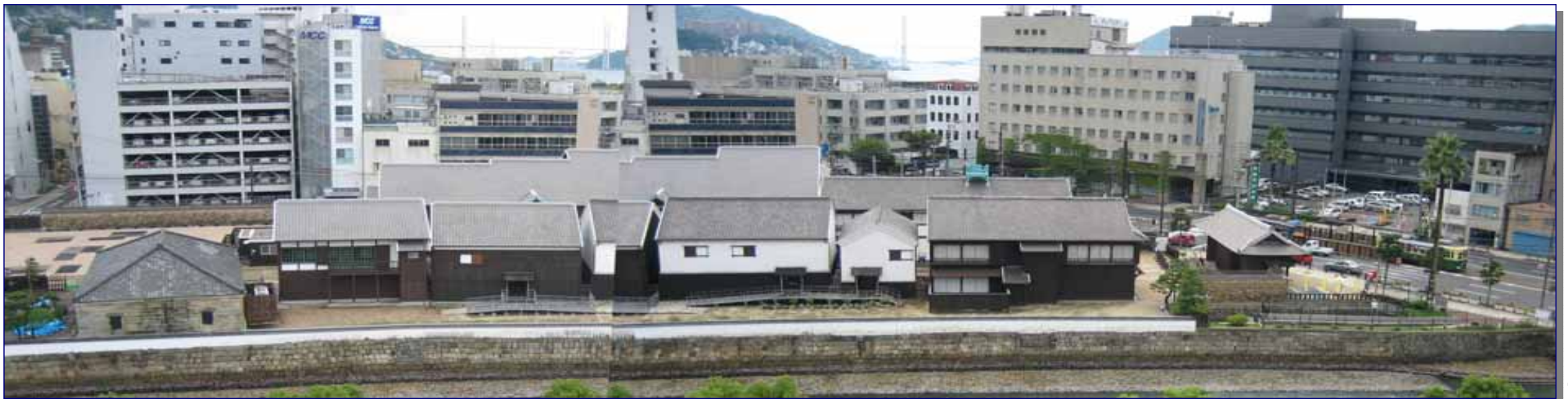
第一別館



第一別館と第二別館車庫



県庁舎の向こうには19世紀初頭の「出島」の姿がある



出島の観光客数

〔出島〕 観光客数 年間約39万人



〔小樽運河〕

運河周辺と調和した街並みの整備

観光客数 年間約500万人

小樽市観光客数
昭和61年 191万人 平成19年 740万人
(549万人増加 3.9倍)

(整備後)

(整備前)

